



大阪・関西万博の公式キャラクター・ミヤクミヤクとの集合写真

広報委員会（委員長＝羽藤俊昭・丸紅(株) 広報部長）は 11 月 28 日、会員企業の皆様との交流を深めるとともに、最新時事に関連する取り組みに触れる機会を提供するため、大阪・関西万博会場の視察およびクリーンエネルギーで走行する船舶「まほろば」を開発・運航する岩谷産業(株)大阪本社の見学会を実施し、5 社より 8 人が参加しました。

#### (1) 大阪・関西万博会場視察

（公社）2025 年日本国際博覧会協会ご協力のもと、大阪市此花区・夢洲の大阪・関西万博会場を視察しました。はじめに、協会事務局より説明を受けた後、大阪府咲洲庁舎 50 階より、万博会場全景を俯瞰しながら、万博開催の意義と現状についての理解を深めました。

また、会場内をバスで巡り、各国パビリオンや企業パビリオン等、建設中の施設を間近に見学しました。万博会場の中心に位置する世界最大級の本造建築物「大屋根（リング）」は、その迫力と規模の大きさから参加者を圧倒しました。



大屋根（リング）近景



大阪・関西万博会場遠景



大林組事務所屋上での集合写真

さらに、大林組の事務所を訪問し、事務所屋上から建設現場の様子を眺望しました。万博の歴史的なプロジェクト工事現場を目の当たりにし、いよいよ万博が開催されることを肌で感じることができました。

## (2) 岩谷産業(株)大阪本社と水素燃料電池船「まほろば」の説明

次に訪問した岩谷産業(株)大阪本社では、同社が万博において万博会場と大阪市内を結ぶルートで旅客運航を実施する水素燃料電池船「まほろば」の説明を受けました。

「まほろば」は従来の内燃機関船と違い、走行時にCO<sub>2</sub>や環境負荷物質を排出しない水素燃料電池を使用し、高い環境性能を有するだけでなく、においがなく、騒音・振動の少ない優れた快適性を実現した船舶であり、こうした船舶の旅客運航は、国内初の取り組みです。同社の担当者は「所轄省庁との折衝をはじめとする多くの課題を乗り越え、運航実現に至った喜びは非常に大きい」と語りました。



水素燃料電池船「まほろば」模型



岩谷産業担当者より説明を受ける参加者

同社内に置かれた同船の模型をもとに、船舶のデザイン・設計や運航に関する説明が行われ、参加者から多くの質問が飛び交いました。「環境への配慮が重視される昨今、このような取り組みが持つ社会的意義は非常に大きい」「今後の普及が期待される」といった声が挙がるなど、活発な意見交換の場となりました。

多大なるご協力を賜った(公社)2025年日本国際博覧会協会様、岩谷産業(株)大阪本社様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



「まほろば」を囲んで 集合写真

**【本件担当・問い合わせ先】**  
一般社団法人日本貿易会  
広報グループ